

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Peplomycin therapy for skin cancer in Japan.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ8-1，WEB-CQ8-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	2426073	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Drugs Exp Clin Res.	
	雑誌 ID		
	巻	12	
	号	1-3	
	ページ	247-55.	
	ISSN ナンバー	0378-6501 (Print)	
	雑誌分野	1. 医学 2. 歯学 3. 看護 4. その他 （ 1 ）	
	原本言語	1. 日本語 2. 英語 3. ドイツ語 4. その他 （ 2 ）	
	発行年月	1986	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Ikeda, S.	Dept. Dermatol. Saitama Medical School
その他著者 1		Ishihara, K.	
その他著者 2		Matsunaka, N.	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	Peplomycin の臨床効果を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	埼玉医大病院、国立がんセンター附属病院、和歌山県立医大病院、他	
	対象者	皮膚扁平上皮癌 95 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ ） 不明	
	介入（要因曝露）	Peplomycin	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	5 年生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	Peplomycin1 日 2 回分割、筋注：20CR+33PR/86, RR61.6%（対象は anyTN0M0:68.5%, anyTN1M0:25%, M1:10%）。 Peplomycin+mitomycin C: 1CR+4PR/9（対象症例：T3, 4） 5 年生存率は TanyN1M0 (n=14) で 83%であった。 Peplomycin の 1 日 2 回分割投与法は、有害反応を低下させて効果を発揮した。Peplomycin+mitomycin C は T3, 4 に良く効き、また、N1, N3, M1 の一部にも効果があった。手術や放射線療法と組みあわせることにより 5 年生存率は歴史対照に比べて改善された。	
	結論	Peplomycin 単剤あるいは Peplomycin を含んだ多剤併用療法は、皮膚皮膚扁平上皮癌に有効である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久	

	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 皮膚扁平上皮癌の化学療法の効果について検討されたこれまでの報告の中で、最も多数例の症例について検討した研究である。原発巣には高い奏効率を示すが、リンパ節転移や遠隔転移についてはやはり厳しいものがある。このような状況下で手術や放射線療法と組みあわせることにより、TanyN1M0 (n=14) の 5 年生存率が 83% という値は立派である。進行期にあっても集学的治療が有効である可能性を示すものである。
--	------------	--